

公共事業継続箇所評価調査

(様式5)

評価確定日(令和5年 9月29日)

事業コード	R5-建-継-04		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業(改築)		部局課室名	建設部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	道路建設チーム(tel)018-860-2492
路線名等	一般県道 川添下浜停車場線		担当課長名	道路課長 石川 康樹
箇所名	秋田市下浜羽川		担当者名	チームリーダー 船木 孝仁
プランとの 関連	戦 略	防災減災・交通基盤		
	目指す姿	交流を支える交通基盤の強化		
	施策の方向性	高速道路等の整備		

1. 事業の概要

事業期間	H23 ~ R11(19年)	総事業費	20.1 億円	国庫補助率	0.595	
事業規模	○延長L=2,058.7m、幅員W=6.0(8.5)m(1.25+3.00+3.00+1.25) 歩道なし					
事業の立案 に至る背景	○川添下浜停車場線は、秋田市雄和黒瀬から秋田市下浜羽川に至る一般県道である。沿線住民の生活道路として、また、夏期には下浜海岸と内陸部を結ぶ観光道路としても利用されている。このうち地域内は、家屋が密集しており幅員も狭く急カーブも連続しているため、大型車のみならず普通車同士のすれ違いも困難な状況である。また、通学路指定路線になっているものの歩道もないため、非常に危険な状態で通学していることから、円滑な交通の確保及び安全安心な生活空間の確保を図るものである。					
事業目的	○通学路における児童・生徒の安全確保 ○大型車の走行、車両のすれ違い困難箇所の解消 ○下浜道路へのアクセス道路としての役割					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		前回評価	今回評価	増 減	理 由 等	
	事業費	1,480,000	2,011,000	531,000		
	経費内訳	工事費	1,186,000	1,581,000	395,000	労務・材料単価上昇による増額
		用補費	102,000	186,000	84,000	建物調査結果による補償費増額
		その他	192,000	244,000	52,000	軟弱地盤に伴う設計費の増額
	財源内訳	国庫補助	880,600	1,196,545	315,945	
		県債	539,400	733,600	194,200	
その他 一般財源		60,000	81,455	21,455		
事業内容	調査・設計 用地補償 改良工 橋梁工 舗装工	調査・設計 用地補償 改良工 橋梁工 舗装工				
事業の進捗 状況	○令和4年度末で事業進捗率53% (用地進捗率は100%)					
事業推進上 の課題	○住宅隣接地での施工					
関連する計 画等	○国道7号「下浜道路」					
情勢の変化 及び長期継 続の理由	○国道7号「下浜道路」 R2.3開通					
事業効果把 握の手法及 び効果	指標名	県管理道路改築率				
	指標式	改築率(県管理道路改築済延長/県管理道路実延長)				
	指標の種類	● 成果指標 ○ 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目標値 a	52.2% (R7末)	データ等の出典	道路課調べ		
	実績値 b	52.0% (R4末)				
	達成率 b/a	99.6%	把握の時期	令和5年7月		

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項 特になし
	②指摘事項への対応 特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	○車道幅員が5.0mと狭小な道路であるほか、最小曲線半径25mの線形不良箇所も存在しているため、車両のすれ違いが困難となっており、交通に支障をきたしている。 ○家屋連坦部における堆雪帯が確保されておらず、冬期交通の安全確保が課題となっている。 ○通学路指定路線であるが歩道が設置されておらず、事故率も89.4件/億台kmと高いことから、安全な交通空間確保のためのバイパス整備が必要である。	13点
緊 急 性	○国道7号下浜道路が既に完成供用しており、近傍の工業団地等の物流における利便性を更に高めるため、早急に整備を行う必要がある。	10点
有 効 性	○JR下浜駅の公共交通機関や地域防災計画に位置付けられた避難所へのアクセス等により地域コミュニティの確保に寄与する。 ○二次救急医療施設である市立秋田総合病院へのアクセス路線であり、整備による救命率の向上が期待される。 ○R4年度に事業認定を受けており、公益性が認められていることから、事業の必要性が高い。	28点
効 率 性	○事業の費用便益比は1.17であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 24.0 億円 ・総便益の現在価値 28.0 億円 ○計画交通量は2,600台/日である。	19点
熟 度	○令和4年度末の事業進捗率は53%である (用地進捗率は100%)。	18点
判 定	ランク (●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ)	88点
	有効性が高く、事業は引き続き実施すべきである。	
総合評価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

コスト削減に努めながら、計画的な実施に努める。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	○車道幅員が5.0mと狭小な道路であるほか、最小曲線半径25mの線形不良箇所も存在しているため、車両のすれ違いが困難となっており、交通に支障をきたしている。 ○家屋連坦部における堆雪帯が確保されておらず、冬期交通の安全確保が課題となっている。 ○通学路指定路線であるが歩道が設置されておらず、事故率も89.4件/億台kmと高いことから、安全な交通空間確保のためのバイパス整備が必要である。	13点
緊 急 性	○国道7号下浜道路が既に完成供用しており、近傍の工業団地等の物流における利便性を更に高めるため、早急に整備を行う必要がある。	10点
有 効 性	○JR下浜駅の公共交通機関や地域防災計画に位置付けられた避難所へのアクセス等により地域コミュニティの確保に寄与する。 ○二次救急医療施設である市立秋田総合病院へのアクセス路線であり、整備による救命率の向上が期待される。 ○R4年度に事業認定を受けており、公益性が認められていることから、事業の必要性が高い。	28点
効 率 性	○事業の費用便益比は1.17であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 24.0 億円 ・総便益の現在価値 28.0 億円 ○計画交通量は2,600台/日である。	19点
熟 度	○令和4年度末の事業進捗率は53%である (用地進捗率は100%)。	18点
判 定	ランク (●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ) 有効性が高く、事業は引き続き実施すべきである。	88点
総 合 評 価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

コスト削減に努めながら、計画的な実施に努める。

4. 公共事業評価専門委員会意見

--